

# 守山企業景況調査報告書

(第35回)

平成30年4月～平成30年6月期 実績

平成30年7月～平成30年9月期 見通し

# 守山企業景況調査について

(平成 30 年 4 月～平成 30 年 6 月期)

## 1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 69 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

## 2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	16	80.0%
製造業	13	11	84.6%
建設業	12	10	83.3%
サービス業	19	17	89.5%
卸売業	5	5	100.0%
合計	69	59	85.5%

## 3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 30 年 4 月～平成 30 年 6 月、見通しを平成 30 年 7 月～平成 30 年 9 月とし、調査時点は平成 30 年 7 月 31 日とした。

## 4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは DIffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

## 調査の概要

平成 30 年 4 月～6 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 30 年 4 月～6 月期の調査結果では、業況、売上高、採算、資金繰りの 4 指標の数値が低下した。

### <業況>

業況 DI は▲11.9 で前回調査の 3.3 から 15.2 ポイント低下した。業種別では、小売業▲12.5（前回調査比▲12.5）、製造業▲9.1（前回調査比▲17.4）、建設業▲20.0（前回調査比▲30.0）、サービス業▲23.5（前回調査比▲23.5）、卸売業 40.0（前回調査比+40.0）と卸売業を除いてその他の業種で低下した。

7 月～9 月期見通しは全体で▲8.6 であり、わずかに数値は上昇している。

### <売上高>

売上高 DI は 5.1 で前回調査より 17.9 ポイント低下した。業種別では、小売業▲6.3（前回調査比▲35.7）、製造業 18.2（前回調査比▲6.8）、建設業 10.0（前回調査比▲10.0）、サービス業▲5.9（前回調査比▲17.7）、卸売業 40.0（前回調査比±0.0）であり、卸売業以外の 4 業種で低下した。

7 月～9 月期見通しは全体▲8.6 となっており、低下の見込である。

### <採算（経常利益）>

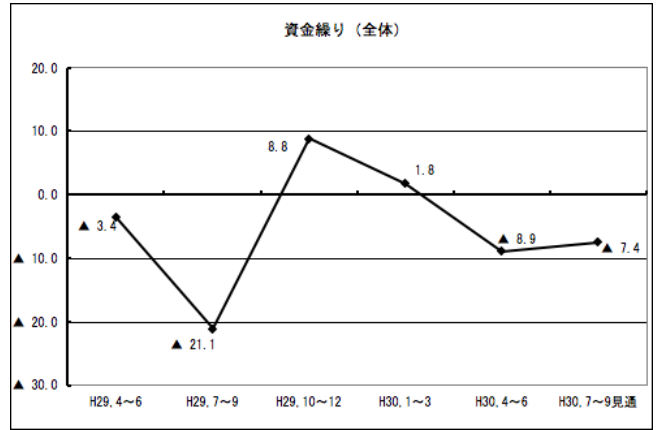
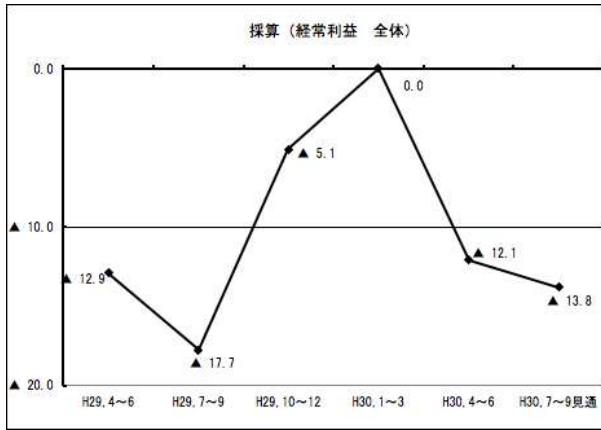
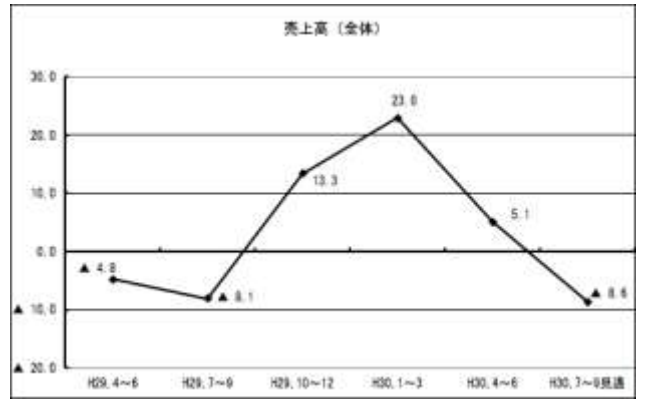
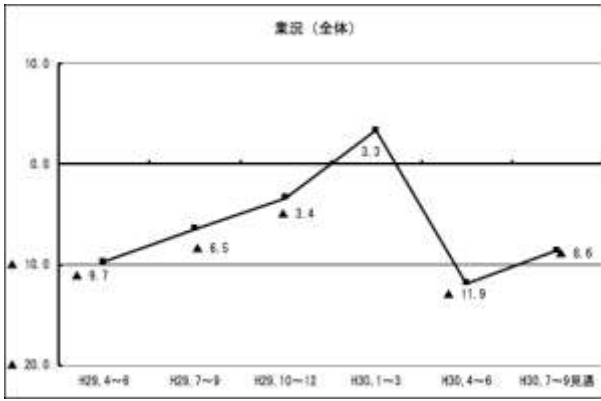
採算（経常利益）DI は▲12.1 で前回調査より 12.1 ポイント低下した。業種別では、小売業▲12.5（前回調査比▲18.4）、製造業 0.0（前回調査比+8.3）、建設業▲40.0（前回調査比▲50.0）、サービス業▲11.8（前回調査比±0.0）、卸売業 20.0（前回調査比±0.0）で製造業が上昇し、サービス業、卸売業が横ばい、小売業、建設業は低下であった。

7 月～9 月期見通しは全体で▲13.8 であり低下の見通しである。

### <資金繰り>

資金繰り DI は▲8.9 で前回調査から 10.7 ポイント低下した。業種別では小売業▲12.5（前回調査比▲6.2）、製造業 0.0（前回調査比±0.0）、建設業▲33.3（前回調査比▲53.3）、サービス業▲6.3（前回調査比▲6.3）、卸売業 20.0（前回調査比+20.0）であった。

7 月～9 月期見通しは全体で▲7.4 であり、今回調査実績から上昇している。



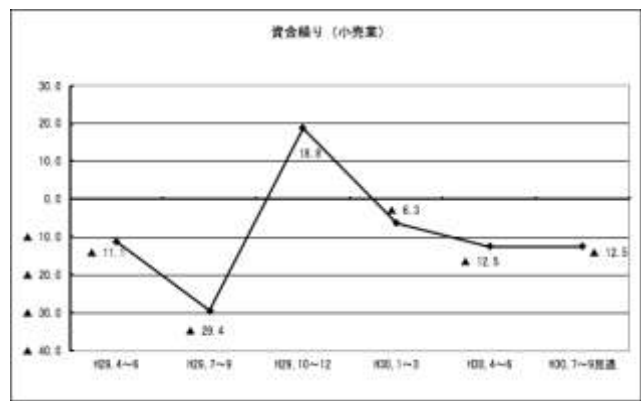
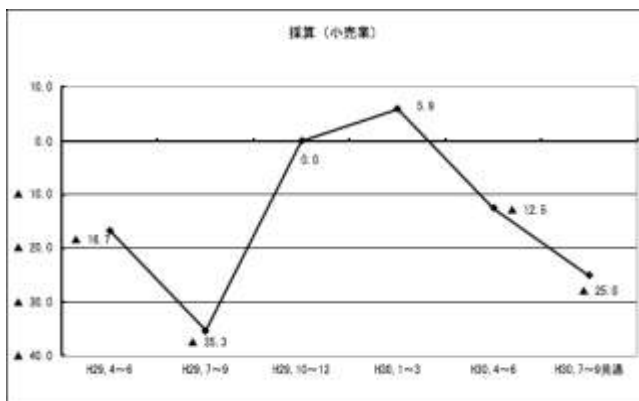
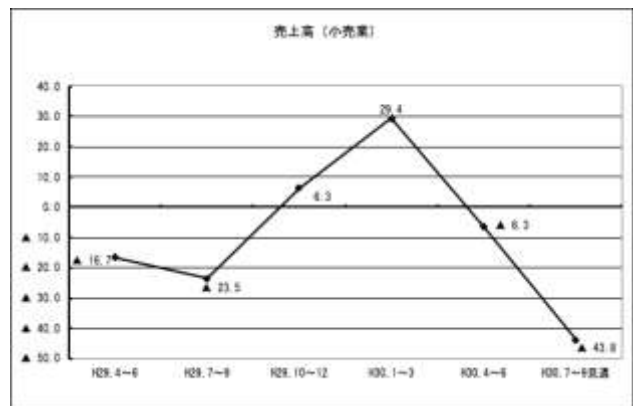
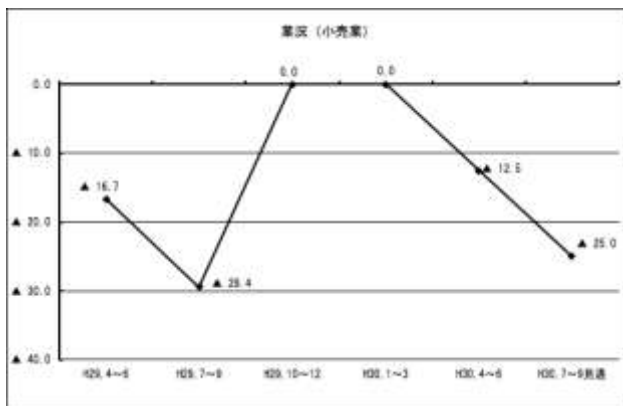
## 小売業

小売業の業況DIは▲12.5で前回調査に比べて12.5ポイント低下した。3四半期振りに低下し、マイナスの数値になった。個別の回答を見ると、業況が良いとする回答もわずかにあるが、悪いとする回答の方が多かった。7月～9月期見通しは▲25.0とさらに悪化する見通しとなっている。

売上高DIは▲6.3で前回調査より35.7ポイント低下した。前回調査では2四半期連続で20ポイント以上の上昇があったが、今回調査では一気に低下した。7月～9月期見通しは▲43.8で益々悪化の傾向が続くと見込まれている。

採算DIは▲12.5で前回調査より18.4ポイント低下した。前回調査では、本調査開始以来初めてのプラス数値であったが、今回調査ではマイナスに戻ってしまった。前回調査の期間が小売業の採算上特別であったように思える結果である。7月～9月期見通しも▲25.0と採算は良くなる気配がなさそうである。

資金繰りDIは▲12.5で前回調査より6.2ポイント低下した。資金繰りのDIは売上高DIや採算DIとは全く違う動きをすることが多いのだが、今回は売上や採算と同じよう下降した。7月～9月期見通しは▲12.5で今回調査と同じ数値であり、資金繰りも良くなる気配はない。



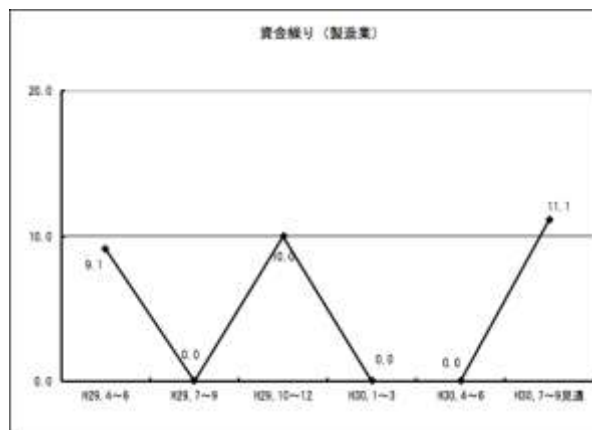
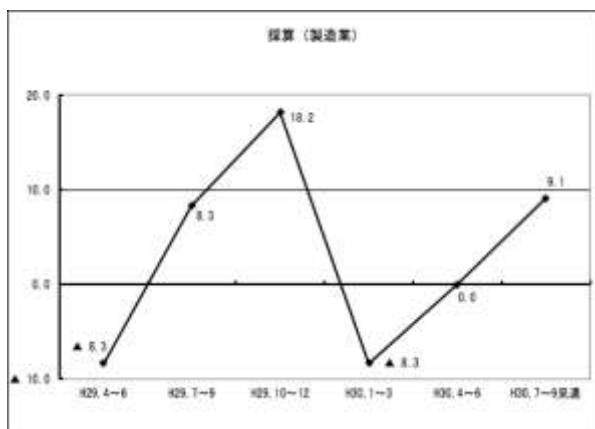
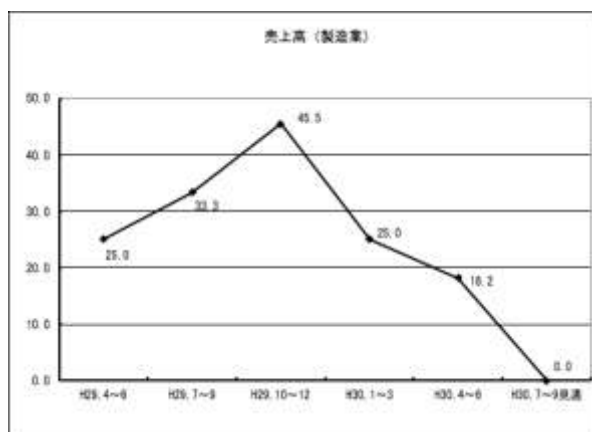
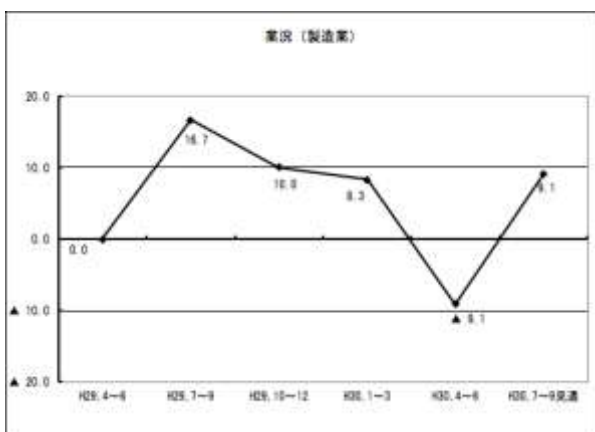
## 製造業

製造業の業況DIは▲9.1と前回調査に比べて17.4ポイント低下した。製造業の業況DIがマイナスになるのは、29年1月～3月期以来のことである。また、29年7月～9月期をピークに徐々に数値が低下してきており、今回はマイナスの数値となった。7月～9月期見通しは9.1と反転しており、この低下傾向はここまでと見られている。

売上高DIは18.2で前回調査より6.8ポイント低下した。2四半期連続のマイナスである。売上高の直近のピークは29年10月～12月期であった。7月～9月期見通しも0.0とさらに悪化する見通しとなっている。

採算DIは0.0で前回調査より8.3ポイント上昇した。業況、売上高が低下したが採算は上昇している。7月～9月期も9.1と採算が良くなる見通しとなっており、前回調査の採算DIが特に低い数値であった可能性がある。

資金繰りDIは0.0で前回調査と同じであった。資金繰りは安定した動きを見せている。7月～9月期見通しは11.1であり、安定した動きに変わりはないと見られている。



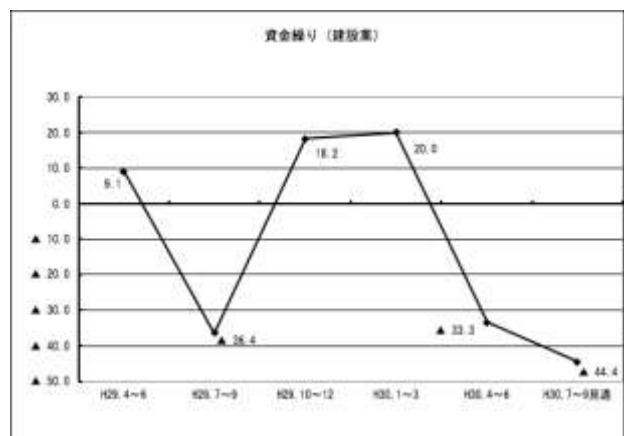
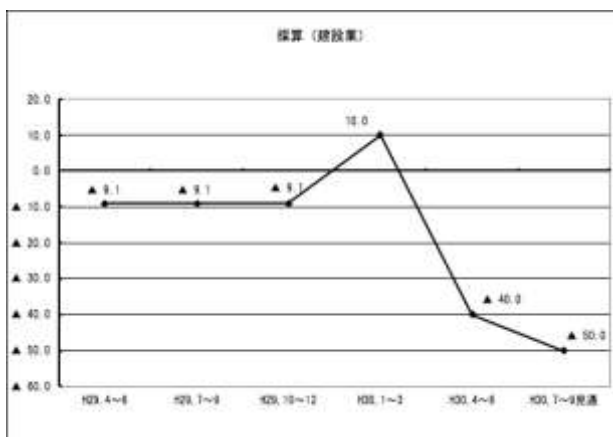
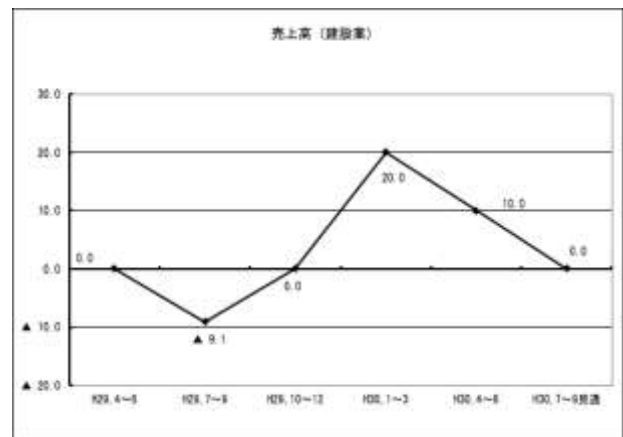
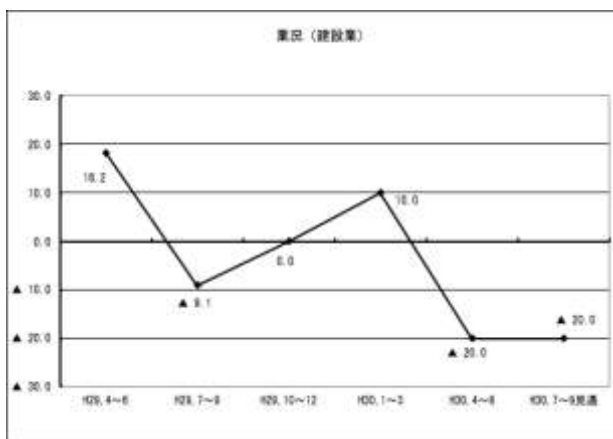
## 建設業

建設業の業況 DI は▲20.0 であり前回調査より 30.0 ポイント低下した。個別の回答を見ると、不変とする回答も多くあり、全体的に悪化していると言うものではなさそうである。7月～9月期見通しも▲20.0 なので同じような傾向が続きそうである。

売上高 DI は 10.0 で前回調査より 10.0 ポイント低下した。前回調査の 20.0 が最近の建設業としては高めの数値ではないかと推測していたが今回の調査結果でそれが裏付けられた形になった。7月～9月期見通しは 0.0 である。

採算 DI は▲40.0 で前回調査より 50 ポイント低下している。建設業の主要 DI は全て低下しているが、採算の低下幅は極端に大きい。個別の回答を見ても採算が良くなったとする回答が皆無であったので、今回調査期は業界全体で採算が大きく悪化したと考えられる。7月～9月期見通しも▲50.0 でなお一段の採算悪化が懸念されている。

資金繰り DI は▲33.3 で前回調査より 53.3 ポイント低下した。前回調査が 20.0 であったので急に資金繰りが悪化したものと考えられ、採算の悪化と資金繰りの悪化が連動しているようである。7月～9月期は▲44.4 で資金繰りの悪化が業界全体に進んでいくようである。



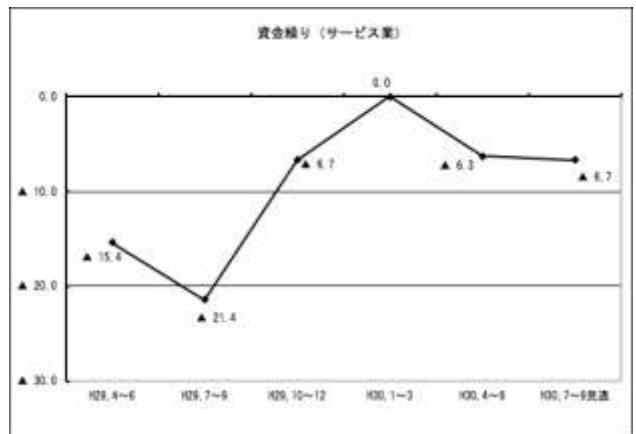
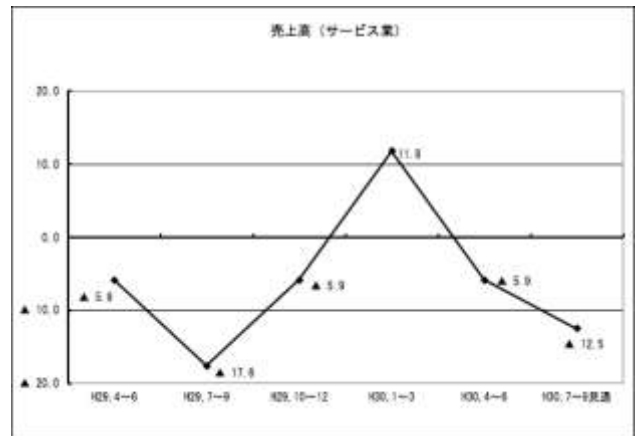
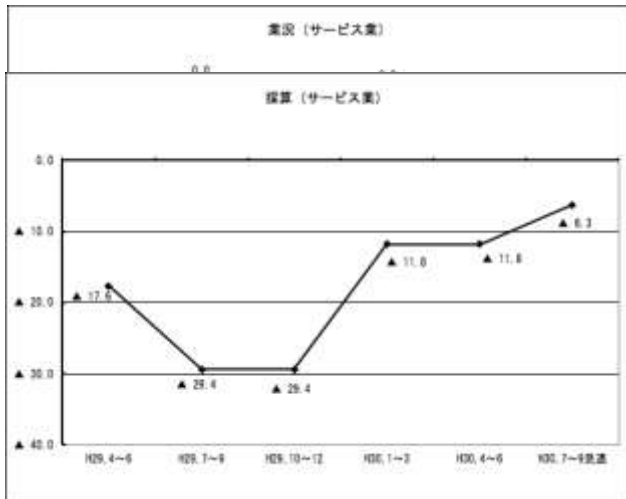
## サービス業

サービス業の業況 DI は▲23.5 で前回調査より 23.5 ポイント低下した。このところの1年の業況 DI は四半期ごとに上下を繰り返しており、今回はマイナスの順にあたった。7月～9月期見通しは▲12.5 で大きくはないが今回調査より戻す見通しである。

売上高 DI は▲5.9 で前回調査より 17.7 ポイント低下した。前回調査の 11.8 がサービス業としては非常に高い数値であったので推移が期待されたところであるが、今回の調査結果を見る限り、前回調査が特に高かったと言わざると得ない。7月～9月期見通しも▲12.5 と悪化傾向を示している。

採算 DI は▲11.8 で前回調査と同じであった。全体のトレンドとしては採算の DI は上昇傾向であると考えられるが、プラスになるにはまだ時間がかかりそうである。7月～9月期見通しは▲6.3 で着実に良くなる見通しである。

資金繰り DI は▲6.3 で前回調査より 6.3 ポイント低下した。29年7月～9月期を底に上昇していたが、今回調査では低下した。7月～9月期見通しは▲6.7 でほぼ変わらない。



## 卸売業

卸売業の業況 DI は 40.0 となり前回調査に比べて 40.0 ポイントの上昇である。調査対象業種の中で唯一の上昇が見られた。1年前の 29 年 4 月～6 月期が▲40.0 であったので 1 年間で 80 ポイント上昇したことになる。7月～9月期見通しも 40.0 で卸売業は好調のようである。

売上高 DI は 40.0 で前回調査と同じであった。29 年 10 月～12 月期に 60.0 になってから 3 四半期連続でプラスになっている。7月～9月期は 80.0 で好調がさらに好調を呼ぶ見通しになっている。

採算 DI は 20.0 で前回調査と同じであった。売上高が良いここに加え、採算も良い状態を維持している。7月～9月期見通しも 20.0 で採算の悪化懸念もなさそうである。

DI 資金繰り DI は 20.0 で前回調査で前回調査より 20.0 上昇した。業況、売上高、採算と他の指標が好調である分だけ資金繰りも好調なようである。7月～9月期見通しは 40.0 で資金繰りはかなり安定していると思われる。





## DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し
全 体	▲ 11.9	▲ 8.6	5.1	▲ 8.6	▲ 12.1	▲ 13.8
小売業	▲ 12.5	▲ 25.0	▲ 6.3	▲ 43.8	▲ 12.5	▲ 25.0
製造業	▲ 9.1	9.1	18.2	0.0	0.0	9.1
建設業	▲ 20.0	▲ 20.0	10.0	0.0	▲ 40.0	▲ 50.0
サービス業	▲ 23.5	▲ 12.5	▲ 5.9	▲ 12.5	▲ 11.8	▲ 6.3
卸売業	40.0	40.0	40.0	80.0	20.0	20.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し
全 体	8.5	10.3	▲ 16.1	▲ 19.3	7.1	7.3
小売業	▲ 6.3	▲ 12.5	▲ 21.4	▲ 35.7	▲ 15.4	▲ 15.4
製造業	18.2	18.2	▲ 18.2	▲ 9.1	36.4	36.4
建設業	▲ 10.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	20.0	10.0
サービス業	17.6	25.0	▲ 25.0	▲ 17.6	0.0	0.0
卸売業	40.0	40.0	40.0	20.0	0.0	20.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し
全 体	▲ 8.9	▲ 7.4	0.0	▲ 2.1	0.0	0.0
小売業	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 10.0	▲ 10.0	0.0	0.0
製造業	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	▲ 33.3	▲ 44.4	0.0	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 11.1
サービス業	▲ 6.3	▲ 6.7	0.0	0.0	0.0	0.0
卸売業	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	▲ 20.0

## 過去からの動向

